

日本語の第二言語習得における否定辞と数詞の作用域解釈

Second Language Acquisition of Scope Interpretation: negation and a numeral in Japanese

鈴木 孝明・瀧元 陽太郎 (京都産業大学)

SUZUKI, Takaaki and TAKIMOTO, Yotaro (Kyoto Sangyo University)

目的

日本語を第二言語として学習する中国語母語話者を対象として、否定辞と数詞に関する2通りの作用域解釈を容認するか調査した。

作用域

- 日本語
さやかさんは3台の車を洗いませんでした。
(数詞: N) (否定辞: Not)
解釈a: さやかさんは3台とも洗わなかった。
(surface scope: N > Not)
解釈b: さやかさんが洗わなかった車の数が3台とは限らない。
(inverse scope: Not > N)
- 英語 (中国語も否定辞と数詞は同様の語順)
Sayaka did not wash three cars.
(否定辞: Not) (数詞: N)
解釈a: It is not the case that Sayaka washed three cars.
(surface scope: Not > N)
解釈b: There are three cars that Sayaka did not wash.
(inverse scope: N > Not)

先行研究

- Lidz & Musolino (2002)
英語母語話者の英語 (SVO) の解釈
Donald didn't find two guys.
大人の英語母語話者は、英語におけるsurface scope (97%)
inverse scope (93%) ともに容認度が高かった。
- Su (2008) 実験1と実験2
中国語母語話者の中国語 (SVO) の解釈
Xiao nanhai meiyou qi liang-tou niu
little boy did not ride two-CL cow
'The little boy did not ride two cows.'
大人の中国語母語話者は、中国語におけるsurface scope (72%)
の容認度は高いが、inverse scope (31%) の容認度は低かった。
- Chung (2013)
韓国語 (SOV) 母語話者の第二言語としての英語 (SVO) の解釈
Mary didn't eat every meal.
1) 英語の習熟度によって異なる解釈を見せた。
2) 中級学習者は英語におけるinverse scope (3.53/4) の解釈に高い容認度を見せたが、surface scope (1.59/4) の解釈の容認度は低かった。これは母語の作用域解釈の選好を転移させているからである。
3) これに対して、上級学習者はsurface scope (2.87/4) とinverse scope (2.07/4) の両方とも容認度が高かった。

実験

- 実験群: 中国語母語話者の日本語学習者16人 (大学生)
- 日本語のレベル: 中級 (N2合格者が10人、N1合格者が4人)
- 統制群: 日本語母語話者12人 (大学生)
- 実験方法: 文脈付き容認度課題 (Chung (2013) と同じ方法)

予測

Chung (2013)の報告に基づくと、中国語を母語とする学習者は母語からの負の転移により日本語におけるsurface scopeの解釈が容認できないと考えられる。

中国語 (SVO): surface scopeがNot > N
日本語 (SOV): surface scopeがN > Not

実験文

surface scope (N > Not) 4トークン

ストーリー: まさこさんは、今日4個のケーキを食べるつもりでした。朝はケーキを食べませんでした。その後、昼に2個のケーキを食べるつもりでしたが、買い物に行ったので、忘れてしまいました。夜はアルバイトに行き、ケーキはたべませんでした。

実験文: まさこさんは、4個のケーキを食べませんでした。

選択肢: 1. 間違っている 2. たぶん間違っている 3. たぶん正しい 4. 正しい

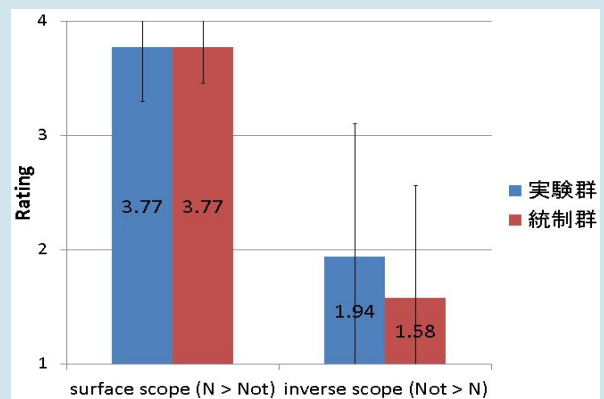
inverse scope (Not > N) 4トークン

ストーリー: さやかさんの家には3台の車があります。彼女は自分の車を洗いました。その後、お母さんから他の2台の車も洗うように頼まれました。しかし、彼女はアルバイトに行ったので、他の2台の車は洗いませんでした。

実験文: さやかさんは、3台の車を洗いませんでした。

選択肢: 1. 間違っている 2. たぶん間違っている 3. たぶん正しい 4. 正しい

結果 (容認度: 1~4)



t検定 (対応あり) の結果

統制群: surface scope > inverse scope, (t(15) = (6.08), p < 0.001)

実験群: surface scope > inverse scope, (t(11) = (6.43), p < 0.001)

統制群、実験群とも日本語における surface scope の解釈の容認度が高かった。一方で、inverse scope の解釈は、ほとんど容認されなかった。実験群の結果は、統制群とほぼ同じであった。

結果: 容認しない場合

学習者のinverse scopeの修正文

テスト文の数詞を書き換えている (46文中、40文)

さやかさんは3台の車を洗いませんでした。

→「さやかさんは1台の車を洗いました。」

→「さやかさんは2台の車を洗いませんでした。」

数詞を書き換えずに作られた修正文は、実験群では0、統制群では3文 (1人が1文を、もう1人が2文を書いた)

被験者A: 「3つとも開けなかった」

被験者B: 「3台とも洗わなかったわけではない」

「4つとも掃除しなかったわけではない」

まとめ

中国語を母語とする日本語学習者は、日本語において、数詞が否定辞よりも広い作用域を取る surface scope の解釈は容認するが、inverse scope は容認しないことが分かった。

Chung (2013)の報告とは異なる結果が得られた。

日本語における作用域の解釈において、中国語からの負の転移はなかった。中級学習者であるにも関わらず、日本語母語話者と同じように作用域解釈ができた。